

Story

わたし物語

下山のかたと一緒に。岡崎市地域おこし協力隊

成田 奈苗 さん

Instagramも
チェック!

◆なりた ななえさん

令和5年4月就任。愛知県みよし市から移住。
下山学区農村RMO(農村型地域運営組織)の
支援に取り組む。



@yamabikonews



「地域おこし協力隊」は、過疎化や高齢化が進む地域の活性化、定住促進を目的として、地域の元気づくりなどに取り組んでもらい、地域力の維持・強化を図る国の制度です。

元々は野菜や果物の自家製乾物づくりの講師をしていた成田さん。地域おこし協力隊に応募したのは、以前に^{げまんちよう}千万町で農村体験に参加し、地域のかたと一緒に農作業をしたことで額田に特別な縁を感じたのがきっかけでした。現在は、下山学区の「オクオカ活性化拠点 下山



▲野菜を収穫する様子

“YAMABIKO”で、直売の青空市の開催や地元食材を使ったメニューを提供する喫茶YAMABIKOの運営、地元野菜を使った乾物づくりに取り組んでいます。「自分のやりたいことを自由にやらせていただけなのは地元の皆さんの優しさとおかげです」と話します。

地域おこし協力隊としての活動が3年目を迎えた成田さんが考える地域活性化のカギは「担い手不足で手放された田んぼの活用」。自身も空き家を譲り受ける予定で、周りの田んぼで米作りにも取り組んでいます。「米作りはハードルが高いと思われがちですが、地元の農家さんに教わりながら実践してみると想像より難しくないと感じられるのでは」と自身の体験から語ります。「将来はこの空き家を米作り体験、学びの場にして、参加したかたが休憩できたり、地元のかたとふれあえたりできる空間を作りたいです。そして継続的に米作りに通う人が出てきて、まちのにぎわいにもつながっていけば」と夢は膨らみます。

「この活動が地域外から訪れる人を呼び、地元のかたとの関係性を生み、また来たい、いつか住みたいと思う人を増やすことで、お世話になったこの地域に恩返しをしていきたい」と語る成田さん。この熱い想いは、人と人をつなぐ架け橋となり、額田地域に活気と新たな希望をもたらすでしょう。

Mayor's Column

岡崎再生

「岡崎に生まれて
本当に良かった！」
そう思えるまちづくりを



岡崎市長 内田 康宏

「三井アウトレットパーク 岡崎」11月開業!

愛知県初の本格的アウトレットモール「三井アウトレットパーク 岡崎」が本宿エリアに、いよいよオープンします。バラエティ豊かな約160店舗が集まるアウトレットゾーンと、約20店舗を有する緑豊かで食充実の公園型施設「OKAZAKI MARKET(オカザキマーケット)」が共存する新しいコンセプトのアウトレットモールとして、地域のみならず、多くのかたにお楽しみいただけたと思います。

本市におきましても、このアウトレットを東部地域の一つの核として、周辺道路の拡張工事業や最寄り駅の名鉄本宿駅にかけての土地区画整理事業をはじめ、ここから中山間地域「オクオカ」に向けてさらなる整備を進めることで、地域の活性化につなげていきたいと考えています。私が前回の市長在任時に始まった事業がようやく実を結ぶ日が来ました。かつてまい種が実りの時を迎え、格別な想いです。ぜひ楽しみにお待ちください。



三井不動産報道発表資料より